“ふじのくに美しく品格のある邑”から季節の情報を発信

季刊誌「むらのおと」

Vol.51
2026.Autumn



mura note file

むらの声

●奥藁科・大川（静岡市葵区）
●中里（藤枝市）

地域×企業等

●本郷（藤枝市）
小谷あゆみのむらレポ
●いまい保全の会（袋井市）

フォトコンテスト
イベントカレンダー

季刊誌「むらのおと」 vol.51 2026 Autumn

2026年10月20日発行
●発行／「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合　静岡県経済産業部農地局農地保全課　〒420-8601　静岡県静岡市葵区追手町9番6号　☎054-221-2714　FAX.054-221-2809

TAKE FREE



第12回 静岡県 農村の魅力フォトコンテスト

作品大募集

応募方法 1又は2

どちらかを選択して応募！※1

1 メール
デジタルカメラ等で撮影したデジタルデータを送信

2 instagram
① むらサポアカウントをフォロー
② ハッシュタグをつけて投稿「#しずおかむらたび●2026」※2

表彰

- 特　選 ── 1点
- 準特選 ── 2点
  - 静岡県土地改良事業団体連合会長賞　1点
  - ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合会長賞　1点
- 入　選 ── 60点（15点/回）

審査委員長
写真家 沼田早苗 氏

テーマは応募期間（季節）で変化！
「むらサポ」ホームページで発表します。

※1 1と2に審査基準等の違いはありません。※2 ●には季節（春・夏・秋・冬）を入力。

応募期間	春	夏	秋	冬
2026 R8年度 年4回開催	5.1（金）〜6.30（火）	7.1（水）〜9.30（水）	10.1（木）〜11.30（月）	12.1（火）〜2027 2.15（月）

主催：静岡県　共催：静岡県土地改良事業団体連合会、ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合

詳しい応募方法につきましては、裏面をご覧ください ▶

むらサポ しずおか 農山村サポーター

オフィシャルウェブサイト
www.shizuoka-murasapo.net
むらサポ 検索

Instagram
www.instagram.com/murasapo/

ふじのくに 美しく品格のある邑
Beautiful and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"
「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合

オフィシャルウェブサイト
www.fujinokuni-mura.net
美しく品格のある邑 検索

Facebook
www.facebook.com/shizuokamurasapo/
しずおか農山村サポーター「むらサポ」

むらのおと 51 2026 Autumn

CONTENTS








むらの声 mura note file

03 #01 奥藁科・大川（静岡市葵区）

05 #02 中里（藤枝市）

07 地域 ×企業等 本郷（藤枝市）

09 小谷あゆみのむらレポ Vol.35 いまい保全の会（袋井市）

11 フォトコンテスト

13 イベントカレンダー

表紙 / 静岡市葵区

秋の一大イベント、稲刈り作業のお手伝い中の一枚。大変な作業ですが、素敵な笑顔に大人たちの疲れも吹き飛んだことでしょう。
第 11 回静岡県農村の魅力フォトコンテスト（秋）入賞作品
「あふれる笑顔と黄金色」 @wolfboy217



裾野市深良（ふじのくに美しく品格のある邑：深良地区）
第 11 回静岡県農村の魅力フォトコンテスト（秋）入賞作品・第 11 回特選作品
「種まき列車「小麦号」出発」 鈴木 敬盛



ふじのくに美しく品格のある邑って？

日本一高い富士山や日本一深い駿河湾など、変化に富んだ地形と清らかな水に恵まれた静岡県は、農作物や水産物の品目数において全国トップクラス。この豊かな食材を生産する県内の農山漁村には、棚田や茶畑といった美しい風景に加えて、古くから伝わる伝統が息づく地域それぞれの「宝（資源）」があります。

「ふじのくに美しく品格のある邑」とは、地域の宝を大切に思い、それを守り、次世代につなげていこうとする人々が集まって、真摯に活動を行う理想の農山漁村として「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合が認定した地域（邑）です。平成 24 年度に 35 市町の 45 地域が認定されたのを皮切りに、毎年登録数が増え続け、令和 8 年 10 月現在で 157 の地域が名を連ねています。

「ふじのくに美しく品格のある邑」は、深い山々に囲まれた山間地の集落から、周囲が市街地化された農園まで、その個性は様々です。

周辺環境だけにとどまらず、規模の大小、文化や歴史、特産品や名物など、157 の地域にはそれぞれに特徴があり、県全域で多彩で多様な魅力を形成しています。

また、そこで活躍する人々も魅力的です。自分たちの地域を愛し、活動に誇りを持つ人たちの自信に満ちた姿は、訪れる人にとって、忘れられない「美しい思い出」となるはずです。

「ふじのくに美しく品格のある邑」の詳しい情報は連合のホームページにあります。魅力的な場所、地域の特産品、参加できるイベント情報なども掲載されているので、まずは気になる邑を訪ねてみましょう。

ふじのくに美しく品格のある邑ホームページ

「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合とは

「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合とは、邑づくりの趣旨に賛同した県内全35市町、静岡県が会員となり、「美しく品格のある邑」の魅力向上やブランド力強化のために、広報活動、情報収集、調査研究を行い、「美しく品格のある邑」についての審査・登録事務を行う組織です。

邑名/P 記事掲載邑

〈令和8年10月現在〉

登録 157 邑



mura note file
むらの声 #01

大川に根づく在来そば 育て、味わい、種をつなぐ

耕作放棄地を生かし、地域にゆかりのあるそばを育てる奥藁科・大川。種まきから試食まで邑ぐるみで取り組み、在来そばの栽培にも挑戦している。



取材にご協力いただいた「はばたけ大川」の皆さん。
左から、中村 満さん・勝見 恒利さん・海野 鐘男さん・内野 清己さん



見に来て！

聖一国師ゆかりの
しだれ桜

20m、枝張り約 17m の大木で、春になると濃いピンク色の花を咲かせ、茶畑が広がる里山を鮮やかに彩ります。

● 場所／静岡市葵区栃沢



奥藁科・大川
おくわらしな・おおかわ

静岡市葵区

- 電車・バス／ JR 静岡駅からしずてつジャストライン藁科線「日向」行きで約 70 分、「日向」バス停下車
- 車／東名静岡 IC から約 60 分、新東名静岡 SA スマート IC から約 30 分

藁科川の上流、豊かな山々と清流に恵まれた大川地区。ここでそばを育てながら、農地と里山の風景を守っているのが「はばたけ大川」です。

活動が始まったのは約20年前。人口減少や高齢化に伴い、耕作放棄地が目立ち始めたことがきっかけでした。「何とかしなきゃならないね、と話していたんです」と会長の勝見恒利さん。現在は８つの町内会・自治会から約40人が参加し、草刈りや農道、土手の整備などを行いながら、地域の景観を維持しています。

整えた農地で育てているのが、大川の暮らしと深く結びついてきたそばです。「昔は山を切り開いてそばをまき、収穫したものを正月などに食べていたんです」と副会長の中村 満さん。農地をきれいにするだけで終わらせず、そばを育てることで、再び農地を生かしています。

９月に種をまくと、10月には白い花が畑一面に咲き、月末には収穫。刈り取ったそばを天日で乾燥させ、脱穀などを経てそば粉にします。収穫したそばは、地域のそば文化を守る「１００年そばの会」の協力でそば打ちを行い、「そばを食べる会」で地域の人たちに振る舞います。用意するのは約１３０人前。「やっぱりがやりがいですね」と勝見さん。農地を整え、育て、収穫し、味わうところまで、地域の人たちの手でつないでいます。

さらに昨年からは、「１００年そばの会」が守ってきた大川の在来そばの栽培にも挑戦。粒が小さく、収量の確保が難しい一方、その魅力は豊かな香り。「香りが違うんですよ」と勝見さんは話します。

担い手不足という課題を抱える大川。それでも、収穫した在来そばの一部を翌年の種として残し、再び畑へ。種をまき、育て、味わい、また次の年へ。大川のそばと地域の営みは、こうして受け継がれていきます。



なかむらみつる
中村 満 さん

「はばたけ大川」副会長、大川地区自治会連合会長。建設会社を経営する傍ら、地域のさまざまな活動に携わり、大川の発展と伝統の継承に取り組んでいる。



かつみつねとし
勝見 恒利 さん

「はばたけ大川」会長、大川地区自治会連合会副会長。退職後は米づくりに携わりながら、農地の保全やそば栽培などの地域活動に取り組んでいる。

お盆はみんなが大川に集う夏祭り

毎年８月13日に開催する「大川夏祭り」は、お盆で帰省する人たちも集う大切な地域行事です。昔ながらの伝統を受け継ぎながら、花火やキッチンカーなど、世代を問わず楽しめる催しも取り入れ、例年 500〜600 人ほどでにぎわいます。地域を離れた若い世代にも、大川とのつながりを持ち続けてもらえたらうれしいですね。ぜひ遊びに来てください！

邑びとメッセージ



大川夏祭りの花火

EVENT INFORMATION

日向の七草祭

【例年２月】



旧暦1月7日に福田寺観音堂で行われる伝統行事。午前中の「旧の出の祈祷」に始まり、夜祭りでは五穀豊穣を願う田遊びが奉納されます。県指定無形民俗文化財。

●会場／福田寺観音堂　（静岡市葵区日向1160）

在来そばの栽培から試食まで



【1】種まき｜畑に並び、一粒一粒、丁寧に種をまいていく。



【2】収穫｜実りの時期を迎えたそばをみんなで収穫。



【3】脱穀｜昔ながらの道具も使いながら実を丁寧に取り出す。



【4】調理｜収穫したそばは「100 年そばの会」の皆さんが手打ちそばに。



【5】試食｜打ちたて、茹でたてのそばをみんなで味わう。

「自分たちでやろう」から始まった中里の風景を守る 20 年

休耕田を自分たちの手で何とかしようと始まった中里 NSK。農地を守り、生かす活動を 20 年以上にわたり続けている。



子どもたちを招いて行うサツマイモ掘り。土に触れ、収穫する楽しさを体験。



休耕田を活用して育てたコスモス。秋には色鮮やかな花が中里の風景を彩る。



「中里を住みよくする活性化の会」メンバーのみなさん。



草に覆われつつあった休耕田を整備。草刈りや畑づくりなど、地道な作業が活動の原点。

中里（なかざと）

藤枝市

- 電車・バス／ JR 藤枝駅から藤枝市自主運行バスで約 40 分、「中里」バス停下車
- 車／新東名藤枝岡部 IC から約 20 分

豊かな自然に恵まれた藤枝市瀬戸谷地区。瀬戸川沿いに広がる中里では、20年以上にわたり、「中里を住みよくする活性化の会NSK」が休耕田を活用しながら里山の環境を守ってきました。

活動の始まりは平成14年。土地改良できれいに整備された田んぼに次第に草が目立つようになり、仲間で草刈りをした後、缶ビールを片手に話していたときのことでした。「せっかくきれいになった田んぼだから、自分たちの手で草を刈ろうか、という話になったんです」と会長の山崎昇さん。その思いに賛同する仲間が集まり、NSKが誕生しました。

草を刈って整えた休耕田では、サツマイモをはじめ、レンゲやコスモスなどを栽培。春には子どもたちがレンゲ畑で遊び、秋には芋掘りを楽しみます。保育園などを長年受け入れているほか、学校の畑がイノシシの被害に遭った際には、芋掘りに招いたことも。「子どもたちが喜んでくれるのがうれしいんですよ」と話します。

活動は農地の活用だけにとどまりません。かつては陶芸センターと連携し、そばの栽培やそば打ちを体験する企画も実施。参加者が自分でどんぶりを作り、その器でそばを味わうなど、農と陶芸を結びつけた交流も生まれました。

現在のメンバーは8～9人で、平均年齢は70代半ば。それでも毎年元日には焼き芋と豚汁を振る舞い、イベントにも出店するなど、活動を楽しみながら続けています。

今後は「道の駅 ゆとりえせとや」との連携も視野に、訪れる人との交流をさらに広げていきたいと考えています。「無理に仲間に誘うことはしないんです。やっているのを見て、入りたいと思ってくれれば」と山崎さん。そんな気負いのない取り組みが、中里の風景を守り、人と人とのつながりを育んでいます。





秋の風物詩「せとやまるかじり」
●会場／藤の瀬会館・あおぞらイベント広場・芝生広場（藤枝市本郷876）
●問い合わせ／054-639-0120（藤の瀬会館）



今年も焼き芋を用意して待っています！

毎年 11 月に開催される「せとやまるかじり」は、瀬戸谷の農産物や地元グルメなどが集まる秋の恒例イベントです。私たち中里NSKも、休耕田で育てたサツマイモを焼き芋にして販売しています。ステージやさまざまな催しもあり、会場は多くの人でにぎわいます。瀬戸谷のおいしいものや魅力を楽しみに、ぜひ遊びに来てください！

呂びとメッセージ

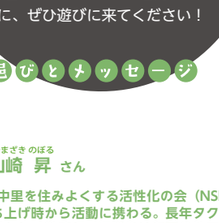
山崎 昇（やまざき のぼる） さん

「中里を住みよくする活性化の会（NSK）」の立ち上げ時から活動に携わる。長年タクシー運転手として勤務し、退職後は瀬戸谷地区の自主運行バスの運転も担当。休耕田の保全や地域活動に取り組んでいる。

遊びに来て！

ものづくりも、温泉も、食も楽しめる！

道の駅 ゆとりえせとや



2026 年 4 月、瀬戸谷地区にオープンした新たな交流拠点。地元の朝採れ野菜や特産品が並ぶ農産物直売所やカフェをはじめ、陶芸体験ができる陶芸センター、天然温泉「瀬戸谷温泉ゆらく」も併設。食べてつくって、温泉でくつろぎながら、瀬戸谷の魅力を満喫できます。

●場所／藤枝市本郷5445
●問い合わせ／054-639-1126　●駐車場／161台
●定休日／月曜（祝日の場合は翌日休み）
※情報発信施設は無休　●料金／入場無料
https://yutoriesetoya.com/

馬の息に観音様！？

珍しい馬頭観音像

中里に残る馬頭観音像の中には、馬が吐く息の中に観音様が浮かび上がる、独特な姿をした石仏があります。一般的な馬頭観音とは異なる意匠が見どころ。地域に点在する地蔵や石仏とともに、中里の歴史を今に伝えています。

●場所／藤枝市中里
●問い合わせ／藤枝市観光協会　054-645-2500
●料金／入場無料
https://yutoriesetoya.com/



人の手で育む、豊かな水辺

休耕田から生まれたビオトープ



地域の有志によるメダカの保護から始まった「小田野沢ビオトープ」。本郷の人々と環境の専門家が力を合わせ、生き物のすみかを守りながら、子どもたちが身近な自然に触れ、学べる場をつくっています。



8月16日に行われた「生きもの観察会」には、50名を超える親子らが参加。

伊藤さん

ビオトープアドバイザーの伊藤さんから生き物や観察のポイントを教わった後は、水辺と草むらの二手に分かれて採集スタート！▶













メダカとの出会いからビオトープづくりへ

田畑や里山の風景が広がる藤枝市本郷。山あいを流れる沢のそばに、生き物たちが集まる「小田野沢ビオトープ」があります。もともとは水田でしたが、日当たりが悪く、湿り気の多い土地だったため、やがて耕作されなくなりました。転機となったのは、周辺の田んぼを潤す水源でもあったその場所に、メダカが生息していたこと。地域の有志が保護に乗り出し、生き物が暮らせる環境づくりが始まりました。

その活動に加わったのが、市内の環境整備企業「エクノスワタナベ」です。地域との縁から活動に加わり、ビオトープの整備や自然環境の保全にともに取り組んできました。

生き物を知ることから自然を守る一歩へ

8月に行われた「生きもの観察会」では、エクノスワタナベの伊藤明彦さんが講師を担当。「この自然は、地域の人たちが手をかけているからこそ保たれている」と伝え、子どもたちと水辺や草むらの生き物を観察しました。朽ち木をタマムシやクワガタの棲み処として残す工夫や、在来のメダカと外来魚カダヤシの見分け方などを紹介。生き物を探す楽しさを入り口に、その生態や環境を守る大切さを学ぶ機会となっています。



水枯れ対策として、静岡県農村連携促進支援事業を活用し、池を掘削して遮水シートを敷く水漏れ防止工事を実施。泥土を戻し、生き物が暮らせる環境を整えた。

つくって終わりではなく続けていくために

長年守ってきたビオトープでは、近年、渇水期や冬季の水枯れが課題となり、令和7年度に池の水漏れ防止工事を実施。施工前には生き物を一時保護し、工事後に放流するなど、生態系に配慮しながら再整備しました。

「想像以上に子どもたちが喜んで、生き生きと楽しんでいるのがうれしい」と「本郷ふる郷普請の会」の渡辺剛会長。一方で、高齢化が進む中、活動を担う次の世代をどう育てていくかも課題です。

地域の思いと企業の専門性を持ち寄り、生き物と人が集うこの場所を、これからも育てていきます。



ビオトープの生き物たちを紹介する看板。



採集した生き物をみんなで観察し、伊藤さんが特徴や生態を解説。育てられる分だけを持ち帰り、残りは自然に返す。



伊藤 明彦（いとう あきひこ）さん（左）

株式会社エクノスワタナベ 環境事業部。ビオトープアドバイザー、ビオトープ施工管理技士２級。自然復元に関心を持ち、静岡常葉大学名誉教授の山田辰美先生のもとで専門知識を学ぶ。現在は小田野沢ビオトープ再生事業のアドバイザーとして、環境保全や観察会などに携わる。

渡辺 剛（わたなべ つよし）さん（右）

「本郷ふる郷普請の会」会長。ひまわりやコスモス、菜の花の栽培をはじめ、農地や里山の環境保全など、幅広い地域活動に携わる。近年は、地域の農業を支える新たな担い手づくりにも取り組んでいる。

期待できる効果

地域にとって

- 地域の自然環境や生態系の保全
- 休耕田を地域資源として活用
- 子どもたちの環境学習の場を創出
- 自然を通じた地域交流の活性化

企業にとって

- 自然復元に関する技術や知識を地域で実践
- 自然環境保全への貢献
- 地域住民との継続的な関係づくり
- 自然復元事業のさらなる展開

本郷（ほんごう）

藤枝市

- 車／国道１号バイパス谷稲葉 IC から約 15 分
- 電車・バス／ JR 藤枝駅北口 -（藤枝市自主運行バス　藤枝駅ゆらく線）- 瀬戸谷小学校前



左から奥之山隆さん、長島敏彦さん、長島高治さん、筆者、佐藤百合さん、岩井徳次さん

静岡県ふじのくに美しく品格のある邑づくり推進委員

小谷あゆみの「むらレポ」Vol.35



小谷あゆみ

フリーアナウンサー / 農業ジャーナリスト　野菜をつくるベジアナとして農ある暮らしの豊かさを提唱。全国の農村を取材。ブログ「ベジアナの野菜畑チャンネル」静岡県ふじのくに美しく品格のある邑づくり推進委員、農林水産省世界農業遺産等専門家会議委員　棚田学会理事

撮影：うちだしんのすけ

田んぼがあってよかった！

子ども達とともに耕す いまい保全の会

「一木一果」クラウンメロンの産地として地域経済を潤す

静岡県袋井市の北西部にある今井地区は、水田農業を主体に、日本有数のクラウンメロンの産地としても知られます。

最初に訪ねたのは、品評会で農林水産大臣賞を受賞されたこともあるメロン名人の長島敏彦さん（70）のガラス温室です。クラウンメロンは「一木一果」と呼ばれ、一本の木の養分を一果に集中させて育てられます。種まき、接ぎ木をはじめ、一つ一つの工程を丁寧に手掛ける長島さんのモットーは「一番の肥やしは主の足跡である」。通年出荷とあって、1棟ごとに一か月ずつずらして定植し、ほぼ一年中毎日の潅水が欠かせないという大変な仕事です。組合には200人ほどの生産者がいて、輸出もされています。

特別に試食をさせていただいた長島さんのメロンは、かぶりつくと、ジュースのようにあふれる果肉の甘み＝高貴な香りにうっとり、ラグジュアリーな気分を頂きました。

今井小学校といまい保全の会との出会い

地域では、メロンの専業化で収益をあげる一方、田んぼは集落営農組合で管理していました。しかし、高齢化もあり、継続が難しくなりかけていたとき、今井小学校との連携が始まりました。「いまい保全の会」会長の長島孝治さん（79）は、農家や地域住民みんなで農地を守ろうと、2007（平成19）年に会を立ち上げ、地域の農地保全活動に取り組んでいます。

学校との活動は徐々に拡大し、今では「総合的な学習の時間」に組み込んで、全校児童181人で農業体験活動を実施しています。

2年生は夏野菜づくり、3年生は大豆の栽培から豆腐づくりまで、4年生は太田川や鮎の学習、5年生は田植えから稲刈り、しめ縄づくりまでの「田んぼの楽校」で稲作を体験します。

子ども達の心を育む田んぼの楽校

今井小学校教頭の佐藤百合先生に伺いました。

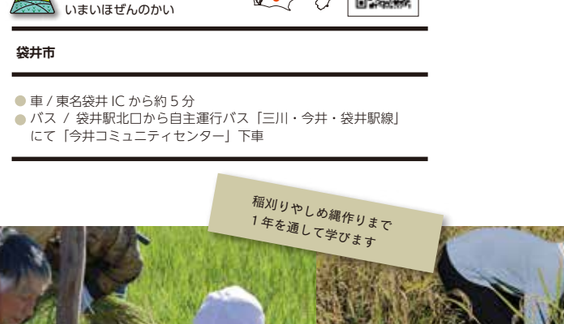
「子どもたちは今井の皆さんに育てられています。食を教材に、地域の方と触れ合うコミュニケーションも大切ですが、地域の方にいちばん頂いているのは愛情です。今、子ども達を取り巻く環境は、AIやタブレットでデジタル化しています。実際に土に触れる体験がどれだけ貴重か。こういう体験がないと心が育っていかない。子どもにとって大事なことなんです。」

いまい保全の会の活動は、子ども達の教育、人間形成において欠かせないものとなっているのです。一方、会のみなさんにとってもメリットがたくさんあります。

岩井徳次さん（72）は、「子ども達との田植えで余った苗を持ち帰り、バケツ稲を始めた。成長を楽しみに写真を撮っている。農協職員だったので、お米の検査や価格のことは知っていたが、育てる喜びは自分のほうが教えてもらった。」と話します。

また、奥之山隆さん（78）は、「昔はみんな農家で、田植えの時は学校を休んで手伝っていた。だんだん農地が減っていく中、学校という拠点があったおかげで、子ども達と活動できることは、地域の未来にとってもありがたい。今井の伝統にしたい。」と力強く語ってくれました。

農地保全のために始めた学校の子ども達との活動は、まさに「田んぼの持つ多面的機能」です。田んぼでの活動を通して、会の皆さんと子ども達が楽しそうに、地域に誇りを持って取り組む姿は、周りの大人たちにも広がります。なんと、活動20年の中で、かつて小学生だった長島会長のお孫さんは、5年前から農家になって地域を耕しています。



5月に小学生が植えた稲。元気に育っています！

「今井の子どもは地域に育てられています」と語る教頭先生



いまい保全の会
いまいほぜんのかい

袋井市

- 車 / 東名袋井 IC から約 5 分
- バス / 袋井駅北口から自主運行バス「三川・今井・袋井駅線」にて「今井コミュニティセンター」下車

稲刈りやしめ縄作りまで1年を通して学びます

今井小学校5年生による田植え

味の決め手は網の濃さ！

メロンのハウスは日当たりを良くするために南側の屋根が大きい！

第12回 静岡県 農村の魅力 フォトコンテスト 入賞作品発表

#しずおかむらたび春2026

訪れてみたくなる、過ごしたくなる、農村の「食」、「文化」、「人々」の写真・投稿を募集しました。

春のテーマ

「未来へつなぐ農村の風景」

久留女木の棚田～竜宮小僧伝説の邑～



「ぼくにもちょうだい」
（浜松市浜名区引佐町　久留女木の棚田）
撮影者：黒田 博文さん
撮影時期：令和８年６月



「家族総動員の年間行事」
（御殿場市清後）
撮影者：鈴木 常雄さん
撮影時期：令和８年５月



「とうもろこし発見！」
（磐田市）
撮影者：山田 志帆海さん
撮影時期：令和８年６月



「新緑の調べ」
（富士市）
撮影者：h_d_n_b_w さん
撮影時期：令和８年４月



「春、目覚める山麓」
（富士宮市）
撮影者：uav.photo さん
撮影時期：令和８年３月

滝沢・滝ノ谷



「豊作への願い」
（藤枝市滝沢　滝沢八坂神社）
撮影者：小沢 大介さん
撮影時期：令和８年２月



「夫婦団欒」
（掛川市）
撮影者：手塚 光次さん
撮影時期：令和８年４月



「大きな櫻と小さな冒険」
（富士宮市　興徳寺）
撮影者：芦川 朋巳さん
撮影時期：令和８年３月

久留女木の棚田～竜宮小僧伝説の邑～



「田植え」
（浜松市浜名区引佐町　久留女木の棚田）
撮影者：heqiang_nj さん
撮影時期：令和６年５月

石部赤根田村百笑の里



「これから実るのは、お米だけじゃない。」
（松崎町　石部棚田）
撮影者：ko05u05ta さん
撮影時期：令和８年５月

白糸の里



「棚田の竹灯り」
（富士宮市原）
撮影者：otnky321 さん
撮影時期：令和８年３月

第12回静岡県農村の魅力フォトコンテスト ＃しずおかむらたび 秋2026 作品募集中！





2026年10月1日（木）から秋のフォトコンテスト開催中です！
応募期間は 11 月 30 日（月）まで。皆様からの多数の応募をお待ちしております！

MURASAPO

詳しくは「むらサポ」instagramアカウントをチェック！

応募期間

10/1 Thu～ 11/30 Mon

今回のテーマは、
「日常を彩る秋の農村」です。

千枢（せんがまち）の棚田



「夕凪」
（菊川市）
撮影者：落合 歩さん
撮影時期：令和８年５月

石部赤根田村百笑の里



「大賑わい」
（松崎町　石部棚田）
撮影者：露木 義光さん
撮影時期：令和６年５月

富士山のふもとの郷を守る邑



「田植えの頃」
（富士市富士岡）
撮影者：髙橋 正雄さん
撮影時期：令和６年５月

朝比奈



「あらさわふるさと公園」
（御前崎市下朝比奈）
撮影者：yn____ygw さん
撮影時期：令和８年４月



お越しいただく皆様へのお願い

開催日時や内容は、余儀なく変更・中止される場合がございますのであらかじめご了承ください。

御殿場市

二子湧水の里

12月中旬

水かけ菜オーナー募集

特産品「水かけ菜」のオーナー募集。
1区画（5㎡）2,500円、収穫量は生葉で8kg程度
摘み取り適期：2月上旬～3月中旬

二子公民館　御殿場市二子366-1
問 ＪＡふじ伊豆富士岡営農センター
☎0550-87-1014



December 12月～

伊豆の国市

浮橋

12月6日(日)

浮橋農業まつり

地元浮橋で栽培したソバやつきたてのお餅の販売、地場産農産物の販売などを行います。
（入場無料、飲食・物販は有料）

浮橋公民館　伊豆の国市浮橋900-5
問 浮橋区長
☎090-4268-3893
旧浮橋そばまつりを新たな形でリニューアル

毎月開催イベント

浜松市

恩地町環境みどり会

10月25日 11月15日　9時～9時30分

恩地町みどり朝市

直売地産地消～「新鮮・安全・安～い」
野菜主体に生産者が直売します。完売次第終了。

恩地町公会堂広場　浜松市中央区恩地町443
問 恩地町環境みどり会 見野　Ⓟ駐車場有 無料
☎053-426-2888



藤枝市

市之瀬

11月22日(日) 10時～15時

おかえりな祭市之瀬へ

秋の里山での縁側カフェ、アート作品展示、ワークショップなどを巡るウォークラリー。運営ボランティアも募集中です。

藤枝市瀬戸ノ谷７５０９-３
市之瀬交流ヴィレッジおかえり他
問 市之瀬盛り上げ隊
☎090-4953-2547
Ⓟ駐車場あり



三島市

三島箱根西麓地区

11月23日(月・祝)

三島フードフェスティバル2026

箱根西麓三島野菜などの特産品を使った地元グルメを多数集めたイベント。

楽寿園（三島市一番町１９－３）ほか市内各所
問 三島フードフェスティバル実行委員会事務局（商工観光まちづくり課）
☎055-983-2766
お越しの際は公共交通機関をご利用ください。



三島市

三島箱根西麓地区・中郷地区

11月29日(日)

第５回 JA ふじ伊豆三島函南地区農業祭

農産物品評会、三島箱根西麓及び中郷地区を含む三島・函南地区の農産物即売会等。

長伏公園（三島市長伏２７４－１）
問 JA ふじ伊豆　地区管理課
☎055-971-8211

静岡市

清沢

11月8日(日)　16時～20時

清沢レモン秋祭り

清沢神楽を鑑賞できます。

旧清沢小学校　静岡市葵区相俣99-1
問 旧清沢小学校
☎054-295-3783
Ⓟ駐車場は旧清沢小学校を利用





伊豆市

いずのやね茅野

11月21日 8時30分～12時

感謝祭

茅野集会場にて餅つき体験・懇親会などに参加

茅野区集会場
問 はちくぼ会事務局ファーマーズヒル（旧かたつむり）
☎0558-85-2104
参加費無料

三島市

山田川自然の里

11月21日(土) 9時～12時

収穫祭

野菜の品評会、野菜等の販売、里山の遊び等

山田川自然の里 管理棟前広場
問 山田川ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑ研究会事務局（農と食のまちづくり課内）
☎055-983-2652



富士市

今神倶楽部

10月下旬～11月上旬

ドーム菊見頃

色鮮やかなドーム菊が一面に広がります。

今宮地区畑　今宮ふれあい公園南西500m
問 富士市役所　農政課
☎0545-55-2780
Ⓟ今宮ふれあい公園駐車場を利用（無料）



November 11月～

浜松市

水窪地区

11月1日(日) 10時～14時

第28回みさくぼ夢街道

水窪の物産と食のイベント

水窪町商店街通り
問 夢街道実行委員会
☎053-987-2100
Ⓟ駐車場あり



湖西市

日本一前向きな地区！前向

11月1日(日)　9時～12時

2026 朝活 Café

コスモス畑にバイク愛好家が集まります。当会と湖西市商工会の共催イベント。地元飲食店による飲食ブースがあります。

前向花畑　湖西市岡崎1667 周辺
問 湖西市商工会
☎053-576-0637
Ⓟ駐車場あり（無料）　参加費無料



伊豆市

いずのやね茅野

10月25日 8時30分～12時

鉢窪山作業道整備

茅野地区にある、鉢窪山作業道の整備作業

茅野多目的広場駐車場
問 はちくぼ会事務局 ファーマーズヒル（旧かたつむり）
☎0558-85-2104　参加費無料

浜松市

水窪地区

10月25日(日)

第36回峠の国盗り綱引き合戦

長野県（信州軍）と静岡県（遠州軍）県境をかけて綱引き３本勝負

浜松市天竜区水窪町　兵越峠
問 天竜区観光協会水窪支部
☎053-987-2100

森町

歴史と自然が奏でる里山　三倉

10月31日(土) 11月2日(月)

オープンハウス「ぷぷふの日」

天方、三倉地区のオープンハウス参加者が自宅や工房で生産品、制作品の展示や販売を行います。

森町体験の里 アクティ森　周智郡森町問詰1115-1
問 森町役場定住推進課
☎0538-85-6321

伊豆の国市

韮山金谷

10月31日(土) 11月1日(日) 17時～20時

江川邸竹灯りイベント「灯そう2026 江川邸の庭へ」

放置竹林の整備により生じた伐採竹を活用し、地域の宝である「江川邸」を竹灯籠や竹のオブジェで彩ります。
両日、地元マルシェの「竹灯り夜市」、ステージイベントを開催。

江川邸及び周辺　伊豆の国市韮山韮山1番地
問 江川邸竹灯り実行委員会　事務局（柴田）
☎090-6335-4333
入場料：高校生以上300円
※イベント開催時間外に江川邸施設を見学する場合は、江川邸入場料がかかります。



Event Calender

邑のイベントカレンダー 2026

令和8年 Autumn



あなたのご意見をお聞かせください

〒420-8601
静岡県静岡市葵区追手町9番6号
静岡県経済産業部農地局農地保全課
FAX 054-221-2809
E-mail：nouchihozen@pref.shizuoka.lg.jp

※ご意見とともに、住所・氏名・電話番号・年齢をご記載ください。
※頂いたご意見は次号以降で掲載させていただく場合があります。
※個人情報は、連絡のため以外には使用いたしません。



October 10月～

森町

歴史と自然が奏でる里山　三倉

10月24日(土) 25日(日)

許禰神社例祭

二輪屋台が勇壮なお囃子に合わせ巡行し、山合の街道が賑わいます。

森町三倉地区
問 森町観光協会
☎0538-85-6316